

～2名を割り当てた。今回、インストラクターを務めたのは61人で、そのうち7名は国土
館大学スポーツ医科学科を卒業した、救急救命士であった。そして残りは、国土館大学体
育学部スポーツ医科学科のインストラクターコースを終了した学生が務めた。

参加者・インストラクターには、講習会実施後、アンケート調査を行った。

6、

今回の講習会は日本赤十字社・スポーツクラブ・医療系大学・養護教諭・体育系大学・
事務員等、多種多様な背景を持った方々が受講された。救急救命に関わる人だけではなく、
様々な職種・背景の方が同じ時と場を共有して、人命を救おうという同じ目的意識を持ち
学ぶことができた今回の講習会は、PAD（一般市民による除細動）が当たり前
に実施される安全な社会の構築への大きな一歩となるであろう。

シンポジウムの内容では、今年話題になった万博「愛地球博」におけるAEDの活用実態と
いったタイムリーな話題や心肺蘇生法を用いた「命の教育」といった普遍的な話題に至るま
で様々な観点から発表していただき、受講生からも各話題に対し活発に質疑が飛び交い、
とても有意義なシンポジウムとなった。

スキル指導では去年の5～6人の受講生に対し1人のインストラクターを割り当てたもの
より、3対1と割合が高くなったので密で内容の濃いインストラクションが実施出来たと思
われる。受講生は日本赤十字社のベテランの心肺蘇生法指導者の方からスポーツジム勤務
の方、さらに一般の方まで幅広い層に及んだが、みなさん真剣に、そして和気あいあいと
BLS+AEDについて実際に体を動かして体験されていた。各スキルをレクチャーしシナリ
オを用いて一連の流れを練習してもらった後に、実技試験と筆記試験を実施した。両試験
とも全員8割以上の点数を取得されていた。これは、限られた時間のなかでの講習会であ
ったが受講者の方々、全員が真剣に学ばれた成果の現われであろう。

また、閉会式において全受講生にプロバイダー資格の認定証と修了証を発行した。今回
は全員が8割以上の成績を修められたのでインストラクター資格を取るチャンスがあるIA
（インストラクターアシスタント）の資格も全員が取得された。今回の受講生が更なる勉
強を積み将来的にはインストラクターとなり、新たなプロバイダーの育成を実施されるよ
うになられることを強く期待する。

ご来場アンケート

平成17年11月13日

本日はお忙しいところご来場いただきまして誠にありがとうございました。今回の講習会いかがでしたでしょうか？当大学では今後も積極的に心肺蘇生法講習会を開催して行きたいと考えております。つきましては、今後の参考のために皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたく、アンケートを用意いたしました。お手数ですが、アンケートにご協力お願いいたします。

1. 今回のシンポジウムを何で知りましたか。

- 新聞・雑誌① ホームページ② ポスター③ 知人等からの紹介④
 その他⑤ ()

2. 今回のシンポジウムはいかがでしたか。

- 大変良かった① 良かった② 普通③ あまり良くなかった④

3. 初めてAEDを知ったのはいつごろですか。

- 今回初めて知った① 一ヶ月くらい前から知っている②
 二、三ヶ月前から知っている③ その他④ ()

4. 初めてAEDを知ったのは、何で知りましたか。

- 新聞① テレビ(ニュース)② インターネット③ 知人から聞いた④
 病院内にあるポスターなど⑤ 以前に受講した心肺蘇生法の講習会⑥
 今回のシンポジウム⑦ その他 () ⑧

5. AEDを今後設置するとしたらどのような場所にあると良いと思いますか。

- 公共施設(駅、公民館など)① スポーツ会場② 学校(避難地域指定所)③
 その他④ ()

6. AEDについての自己理解度を5段階評定でお聞かせ下さい。(おおまかで結構です。)

理解できた [1 2 3 4 5] 理解できなかった

7. またこのようなシンポジウムに出席したいと思いますか。

- 是非出席したい① 都合がつけば出席したい② あまり興味がない③

8. あなたの性別、年齢をお聞かせください。

性別 : 男性 M 女性 F

年齢 : 20歳以下① 21～40歳② 41～60歳③ 60歳以上④

9. ご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力いただきましてありがとうございました。

ご来場アンケート（結果）

平成 17 年 11 月 13 日 実施

1. 今回のシンポジウムを何で知りましたか。

新聞・雑誌	0
ホームページ	1
ポスター	2
知人等からの紹介	61
その他	38
うち日赤	35
無回答	1

2. 今回のシンポジウムはいかがでしたか。

大変良かった	76
良かった	26
普通	3
あまり良くなかった	0
無回答	0

3. 初めてAEDを知ったのはいつごろですか。

今回始めて知った	4
1ヶ月前くらいから知っている	0
2～3ヶ月前から知っている	16
その他	80
うち半年以上前から	53
無回答	2

4. 初めてAEDを知ったのは、何で知りましたか。

新聞	12
----	----

テレビ(ニュース)	9
インターネット	2
知人から聞いた	21
病院内にあるポスターなど	1
以前に受講した心肺蘇生法講習会	21
今回のシンポジウム	0
その他	35
うち授業	11
うち日赤	9
無回答	4

5. AEDを今後設置するとしたらどのような場所にあると良いと思いますか。

公共施設(駅、公民館など)	78
スポーツ会場	59
学校(地域避難指定所)	61
その他	14
うち人の集まる場所	6

6. AEDについての自己理解度を5段階評定でお聞かせ下さい。(おおまかで結構です。)

1(理解できた)	53
2	25
3	11
4	12
5(理解できなかった)	4

7. またこのようなシンポジウムに出席したいと思いますか。

ぜひ出席したい	66
都合がつけば出席したい	39
あまり興味がない	0

8. あなたの性別、年齢をお聞かせください。

男性	53
女性	51
無回答	1

20歳以下	10
21～40歳	45
41～60歳	37
60歳以上	11
無回答	2

[別紙様式3]

研究成果等普及啓発事業発表会

(循環器疾患等総合研究推進事業研究)

開催結果報告書

1. 発表会開催者

所屬・職名 : 大阪府三島救命救急センター 所長

氏 名 : 森 田 大

2. 開催日時

平成18年1月7日(土曜日) 14時00分～17時00分

3. 開催場所

名 称 : 高槻市立総合市民交流センター

所在地 : 高槻市紺屋町1番2号

4. 参加者数

130人

5. 発表テーマ

心臓発作で倒れたら一脳蘇生とAEDの使い方

6. 発表内容

- ・市民向けのAED使用方法教育啓発活動
- ・地域における救命意識調査

7. 発表会の成果

- ・救命率の高い地域を実現するためにAEDの設置促進がひとつの手段として有効であることの理解が深まった。
- ・地域の商業施設や鉄道駅への設置が実現した。

研究成果等普及啓発事業
発表会（循環器疾患等総合研究）

開催結果報告書

1、発表会開催者

所属・職名 : 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授 医学博士
氏 名 : 田中 秀治

2、開催日時 平成18年01月07日（土） 17:00～21:00

3、開催場所

名 所 : 東京体育館会議場
所在地 : 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-17-1

4、発表テーマ スポーツ事故を防げ！少年スポーツにおける救急医療体制
(BLS・AEDの普及と応急処置の普及)

5、発表内容

2004年7月より一般人へのAEDの使用が認められ全国各地でAEDの使用法を含めた心肺蘇生法講習会が開催されてきている。現在までに我々は、1000人以上を対象として講習会を開催してきた。しかし、スポーツ中の突然死も多く報告されており、通常の講習会ではスポーツに特化したものではない。今後は骨折固定や創傷処置などの外傷応急処置、または水分補給や障害予防などコンディショニングを含めた講習会が必要であると思われた。

そこで、今回は東京都少年サッカー協会少年連盟委員長ほか各種役員、審判部を対象として、少年サッカーを指導する指導者や審判員が正しい応急処置の知識を身に付け、正しく観察をして正しく応急処置ができるようになり、安全に少年がサッカーをできるように支援する目的で開催した。

上記の目的により、事前アンケート調査を行いその結果から少年サッカーで起こり得る病気や外傷の種類と応急処置について講義を行い、トレーナーの方にオスグット病とゴールデンエイジの特徴と指導法を中心としてお話いただいた。また、AEDの使用法を含めた心肺蘇生法の実技指導を行った。

6、発表会の成果

スポーツ事故に対応するために大きなスポーツ大会（マラソン、サッカー、格闘技など）では、医師や看護師、救急救命士による救急医療体制がとられるようになってきているが小規模な大会やアマチュアスポーツ、練習中におけるスポーツ事故の対策は十分だとは言えないのが現状である。そのため、スポーツの現場に居合わせた指導者または選手、関係者は、スポーツ事故に対する正しい知識と原因、危険性について認識しておく必要がある。

そして、今回の講習会の受講生は救急救命にかかわる人ではなく、実際にスポーツの現場で少年サッカーの指導に当たっている方々であり、スポーツ事故への対応の必要性を共有し、同じ目的意識をもってAEDを含めた心肺蘇生法を習得し、実施される社会の構築に貢献するものとなるだろう。

また同時に、命の大切さを認識し応急処置への理解も深まり、スポーツ事故の迅速な対応や予防に努める第一歩となるだろう。

今回の講習会において、受講生全員がBLS・AEDのプロバイダーを取得された。そしてその全員が8割以上の成績を修められインストラクター資格を得るチャンスのあるインストラクターアシスタント(IA)の資格も取得された。この結果はすべての受講生がBLS・AEDの必要性を強く感じ真剣に取り組まれた成果の現われであろう。今後は、更なる自己学習に努めていただいてインストラクターとなり、新たなプロバイダーの育成にあたっていただき、スポーツ指導者間からスポーツ事故に対する関心を高めていただくことを期待する。

アンケート

担当インストラクター氏名： _____

受講生氏名： _____

本日は Heart Saver Japan 心肺蘇生法講習会受講ありがとうございました。今回の講習会いかがでしたでしょうか？当組織では今後も積極的に心肺蘇生法講習会を開催して行きたいと考えております。つきましては、今後の参考のために皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたく、アンケートを用意いたしました。お手数ですが、アンケートにご協力お願いいたします。

1. 今回の BLS+AED 講習会を何で知りましたか。

- 新聞・雑誌 ホームページ ポスター 知人等からの紹介
 その他 (_____)

2. 今回の BLS+AED 講習会はいかがでしたか。

- 大変良かった 良かった 普通 あまり良くなかった

3. 初めて AED を知ったのはいつごろですか。

- 今回初めて知った 一ヶ月くらい前から知っている
 二、三ヶ月前から知っている その他 (_____)

4. 初めて AED を知ったのは、何で知りましたか。

- 新聞 テレビ(ニュース) インターネット 知人から聞いた
 病院内にあるポスターなど 以前に受講した心肺蘇生法の講習会
 今回の BLS+AED 講習会 その他 (_____)

5. AED を今後設置するとしたらどのような場所にあると良いと思いますか。

- 公共施設(駅、公民館など) スポーツ会場 学校(避難地域指定所)
 その他 (_____)

6. AED についての自己理解度を 5 段階評定でお聞かせ下さい。(おおまかで結構です。)

理解できた [1 2 3 4 5] 理解できなかった

7. またこのような BLS+AED 講習会に出席したいと思いますか。

- 是非出席したい 都合がつけば出席したい あまり興味がない

8. あなたの性別、年齢をお聞かせください。

性別： 男性 女性

年齢： 20歳以下 21～40歳 41～60歳 60歳以上

9. ご意見・ご要望をお聞かせください。

裏面のアンケートにもご協力お願いいたします。

アンケート結果(06, 1, 7 実施)

表

1	①新聞・雑誌	0	
	②ホームページ	0	
	③ポスター	0	
	④知人等からの紹介	9	
	⑤その他	36	東京都少年サッカー連盟
	⑥無回答	2	

2	①大変良かった	38
	②良かった	8
	③普通	0
	④あまり良くなかった	0
	⑤無回答	1

3	①今回初めて知った	21	
	②1ヵ月くらい前から知っている	1	
	③2,3ヶ月前から知っている	10	
	④その他	14	もっと前
	⑤無回答	1	

4	①新聞	4	
	②テレビ(ニュース)	11	
	③インターネット	1	
	④知人から聞いた	2	
	⑤病院内にあるポスターなど	2	
	⑥以前に受講した心肺蘇生法講習	3	
	⑦今回のBLS+AED講習会	18	
	⑧その他	6	職場、大会、以前の講習会
	⑨無回答	1	

5	①公共施設(駅、公民館など)	33	
	②スポーツ会場	37	
	③学校(非難地域指定所)	28	
	④その他	6	商業施設、家庭に、消火器と一緒に。
	⑤無回答	7	

6	1	11
	2	16
	3	9
	4	9
	5	1
	無回答	1

7	①是非出席したい	26
	②都合がつけば出席したい	20
	③あまり興味が無い	0
	④無回答	1

8	性別: 男性	45
	女性	1
	年齢: 20歳以下	0
	21~40歳	10
	41~60歳	31
	61歳以上	4
無回答	2	

9 意見・要望

大変勉強(タメ)になった。AEDは普及するべき。行政がもっとPR・推進すべき。この先の指導に役立ちます。より多く開催していただきたい。

研究成果等普及啓発事業
発表会(循環器疾患等総合研究)

開催結果報告書

1. 発表会開催者

所属・職名 : 独立行政法人国立病院機構函館病院 麻酔科医長
氏 名 : 田中 悟

2. 開催日時 平成18年1月18日(水) 13時～17時30分

3. 開催場所

名 称 : 函館市競輪場
所在地 : 北海道函館市

4. 参加者数 98人

5. 発表テーマ 市民による市民のための心肺蘇生
-自動体外式除細動器を用いた新しい心肺蘇生法-

6. 発表内容

【講演】 救命救急活動の現状と一般市民による心肺蘇生の重要性について

13:00-13:30 函館地域における病院外心停止症例の検討
田中 悟 (国立病院機構函館病院 麻酔科医長)

13:30-14:30 函館市の救急医療体制について
小出 明知 (市立函館病院 救命救急センター長)

14:30-15:30 あなたは愛する人を助けることができますか？-AEDを使った蘇生法の実践-
今泉 均 (札幌医科大学 救急集中治療部助教授)

【実習】 自動除細動器の有用性とその使用方法についてのデモンストレーションおよび実習

7. 発表会の成果

官公庁、学校関係、スポーツ施設、ホテル関係等にポスターの掲示依頼やまたその中の数施設では直接面会しての出席依頼を行った。また同時に、新聞、ラジオ、テレビで今回の講演を紹介していただいた。参加者が予定者数を若干下回ったのは残念であったが、当日の悪天候にもかかわらず多くの方に足を運んでいただけた。参加者の熱心な受講態度と活発な質問、実践さながらの救急蘇生実習は有意義であった。今回のテーマ「市民による市民のための心肺蘇生」の性質上、講演のみではなく実際に練習用人形を用い、AEDのデモ機で実際の使用方法を参加者に体感していただいたことは、大変有意義であったと感じる。今回のアンケート結果を十分検討し今後活かし、このような講演会を継続的に開催し、研究成果の市民への還元を行っていきたい。

質問	項目	回答者数	コメント
1. 今回の市民公開講座を何で知りましたか。	新聞・雑誌	28	テレビ(NHK): 米澤先生出演、ラジオ(FM)いるか)、函館市・恵山の情報誌「ステップアップ」など
	ホームページ	0	
	ポスター	14	
	知人等からの紹介	29	
	その他	26	職場、会社から(11名)、病院で(2名)
	無回答	1	
	大変良かった	41	函館の状況が良く判りました。(救命率が低いことやデータ等収集して市として発表したら?)
	良かった	54	
	普通	2	
	あまり良くなかった	1	HPで公開したらどうですか
3. 発表内容はいかがでしたか。	無回答	3	
	分かりやすかった	71	
4. 発表者1人あたりの発表時間はいかがでしたか。	普通	24	
	分かりづらかった	1	市民のための・・・Jではなく、医療関係者のためのって感じがした。もっと簡単に話すと思っていました。子供たちだったからわかりにくいかも。でもいろんなデータが見れたので良かった。今日学んだことをまとめて職場のみんなに伝えます。お疲れ様でした。私は全力で子供たちを守ります。
	無回答	2	
	良かった	25	短くわかりやすく/14:30~休憩10分設けたほうが良かった/45~50分ぐらいがのぞましい/しかし救急体制受け入れの確立の困難性が良く分かった! 頑張ってください! /休み時間があれば問題ない。
	ちよほど良かった	63	
	短かった	4	長くても良い
	無回答	6	
	是非出席したい	43	
	都合がつけば出席したい	55	
	あまり興味がない	0	
6. 会場へのアクセスはいかがでしたか。	良い	32	
	普通	57	
	悪い	8	
	無回答	1	自家用車なので特に何も感じない
	良い	74	少し寒かった
	普通	17	喫煙場所が少し寒かった
	悪い	5	寒かった/床が痛い/見えにくい
	無回答	2	空調が寒かった
	男性	43	
	女性	52	
7. 会場の設備(会場の広さ、音響等も含む)はいかがでしたか。	無回答	3	
	20歳以下	0	
	21歳~40歳	35	
	41歳~60歳	39	
	60歳以上	24	
	会社員	19	
	公務員	14	
	教職員	8	
	医療関係者	19	
	学生	0	
8. あなたの性別、年齢をお聞かせください。	主婦	12	
	無回答	1	
	その他	25	自営業/無職/介護職/元公務員/福祉用具専門相談員/美容師/団体職員/スポーツクラブ等
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
9. あなたの職業等をお聞かせください。	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	
	無回答	1	

質問

10.ご意見・ご要望をお書きください。

コメント

救急隊も参加した方が良いと思います。
 今回の講座は大変勉強になりました。ありがとうございました。講座を受けられた方が少なくて残念でした。もつとPRをしてたくさんの方に講座を受けて欲しいですね。
 救急医療の現状など参考になった。同時に道南の特色(お年寄りが多い)も組み込んで函館の特色ある医療体制を視野に入れて頂きたい。
 市民公開講座、医療に関するものをもっとたくさんやってほしい。その時に、宣伝もしっかりやって市民にやることを多く知らせてほしい。
 小出先生のお話の中にもありましたが「避ける事のできる死」を少しでもなくすことが我々医療従事者の責務だと思えます。また、「組織」の一日も早い作成を望みます。
 DVD本当に感動しました。私もうがばります。
 少し寒かった
 暖かい季節にも、もう一度やって下さい。
 良い公開講座であったと思います。これから何回か行ってほしいと思います。
 市民講座教室として、今後(年2回とか)定期的にうべき。企業の方も参加できる時間をも考えて。大変素晴らしい対応で良い企画でした。
 年数回実施してほしい。
 この様な場面に出来たら、実際に行えるか不安ですが、積極的に行ってみたいと思います。
 実生活に役立つ内容を希望。
 実技を多めにお願したい。
 この講座の回教を多くした方が良い！
 また聞いてほしい。
 講座時間の時間は短くても…。
 高齢となり起こりうる可能性も高くなって気にしていたところ。最近テレビで報じられていたAEDに関心を持っていたのでいい体験となりました。
 専門的な話よりも、具体例をもつと取り上げて説明されたほうがもっと身近に感じ、理解できたのでは？
 救急医療体制は良くなっていくが、一層のネットワークづくりをより知らしめることが必要か。
 AEDを個人的に購入したいが、公的補助金を支えてほしい。
 これから高齢化されるので、AEDの必然性があると思うので、有意義なトレーニングでした。
 また聞いてください。
 勉強になりました。ありがとうございました。
 発表時間を1時間にして、トレタイムがあったほうが良い。
 講演の半ばで休憩がほしかったです。講演内容は各々興味深く聞かせて頂き大変勉強になりました。
 「函館市の救急医療体制について」(小出先生)は興味深く拝聴しました。包活方救急病院の必要性、重要性を強く感じました。医療者としての悩みにも触れたように思います。今泉先生のお話はダイレクト且つ明快。全体的にメリハリのある意義深い講座でした。
 救急体制について詳しく話をするより、なぜ今AEDが必要なのかを話すだけでよかったです。田中先生の話はわかりやすくよかったです。今泉先生のお話もわかりやすく面白かったです。

[別紙様式3]

研究成果等普及啓発事業
発表会（循環器疾患等総合研究）
開催結果報告書

1、発表会開催者

所属・職名

:駿河台日本大学病院 救命救急センター部長

氏名

:長尾 建

2、開催日時

平成18年 1月21日(土) 13時00分～17時00分

3、開催場所

名称

:カザルスホール(日本大学法科大学院10・11F)

所在地

:東京都千代田区

4、参加者数

57人

5、発表テーマ

いざと言う時に(心臓発作を中心に)

6、発表内容

①一次救命処置とAEDの有効性をSOS-KANTOの集計結果を中心に講演

②各グループに分かれて、人形とAEDを用い、インストラクターのもとでトレーニング

7、発表会の成果

②の終了後にアンケート調査を実施し集計。
(集計成績は別途参照)

研究成果等普及啓発事業

発表会（循環器疾患等総合研究）

開 催 結 果 報 告 書

1. 発表会開催者

所属・職名 : 国立循環器病センター 心臓血管内科部長/緊急部長
氏 名 : 野々木 宏

2. 開催日時 : 平成18年1月22日（日）14時00分～16時00分

3. 開催場所

名 称 : 千里ライフサイエンスセンター
5階 ライフホール、サイエンスホール
所在地 : 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

4. 参加者数 : 110名

5. 発表テーマ : 「あなたの勇気が命を救う（救命都市おおさか事業）
-心臓突然死の実態とAEDの使い方-」

6. 発表内容

厚生労働科学研究の目的に則し、市民への心肺蘇生法と自動体外式除細動器（AED）使用に関する啓発のため「あなたの勇気が命を救う（救命都市おおさか事業）-心臓突然死の実態とAEDの使い方-」のテーマで公開講座を開催した。

1) 講演 座長 国立循環器病センター 野々木宏
座長から、院外心停止に対するAEDの解説と導入の重要性を導入部分として話をし、5名の方からテーマ毎に発表いただいた。

(1)大阪での院外心停止の実態について（ウツタイン大阪プロジェクトより）

: 行岡医学研究会行岡病院 行岡秀和先生

大阪府が1998年から取り組んでいる院外心停止登録作業について説明し、人口が800万人を越える地域での国際的に標準化されたウツタイン様式を用いて全

例登録作業を実施しているのは、世界的にも類がなく誇れる事業であることが示された。救命率が徐々に上昇し、それには市民による心肺蘇生法の実施が重要で、それに続く AED 使用が奏功すれば更に救命率があがることが示された。

(2) AED の設置状況について：大阪府立千里救命救急センター 向仲 真蔵 先生
大阪府下や全国における AED 設置状況が示され、設置マップの作成などの取り組みが提案された。

(3) 救命都市高槻キャンペーンについて：大阪府三島救命救急センター 森田大先生
「あなたの勇気が命を救う」というテーマで高槻市において 12 月末から開始されているキャンペーンについて説明があり、心肺蘇生法と AED の必要性を啓発し、救命率の向上をはかることの重要性を強調いただいた。

(4) 救命都市おおさか戦略事業について：大阪府健康福祉部 徳本史郎先生
行政機関として、AED 普及についての取り組みを解説いただき、府民への講習会やマニュアル作りを関係団体とともに準備をすすめていると報告いただいた。

(5) 大阪ライフサポート協会の活動について：大阪医科大学 西本 泰久先生
倒れている方を発見したときに市民が実施できる応急処置について解説があり、AED とともに心肺蘇生法の実施が重要であることが強調された。現在 NPO 団体として心肺蘇生法啓発活動を実施している大阪ライフサポート協会の活動が報告された。

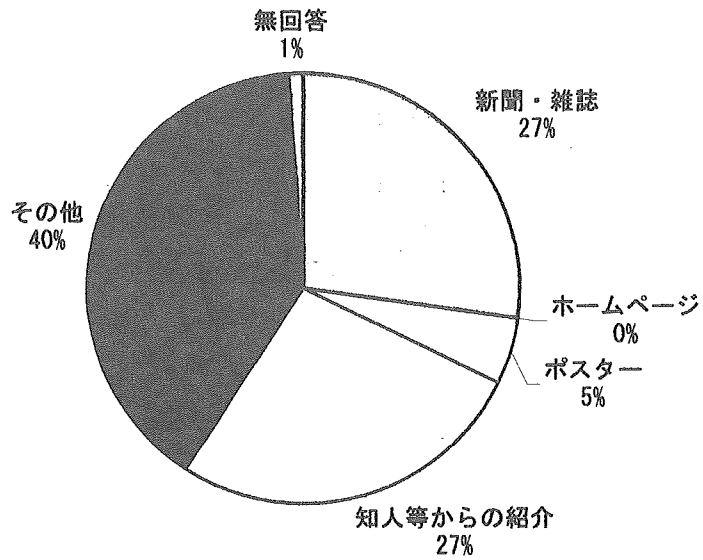
2) AED と心肺蘇生法の実際について：マネキンと AED 練習機を使用して市民に体験学習

公開講座の通知として、パンフレットを 3000 部、ポスター 90 部作成し、6 消防本部、6 医師会、4 保健所、患者団体へ配布、また、新聞にて開催通知を行った。参加者は約 100 名、資料として心肺蘇生法普及パンフレットを配布した。また、実習には厚生労働科学研究費により普及用として購入した心肺蘇生法用のマネキン 18 体、AED 練習機（トレナー）54 台を別室に準備し、医師・看護師・救命士により使用説明を行い、その後に実際に市民の方に使用実習をうけていただいた。実習の際、1 体に付き国内で使用されている AED 3 種類の練習機を設置した。

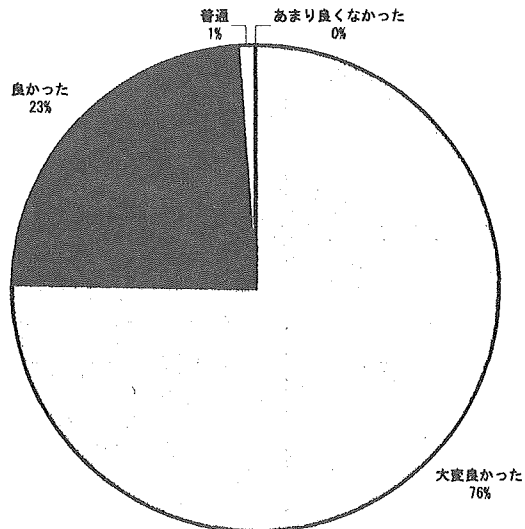
7. 発表会の成果

講演から実習へとほぼ全員のかたが参加いただき、実習でも 1 時間以上にわたり熱心に心肺蘇生法や AED を自ら体験をいただいた。公開講座の効果を調査するためアンケート調査を行い、81 名から回答が得られた（図参照）。講演内容は好評でわかりやすく、心肺蘇生法受講経験者が 51% と高く、AED を事前に知っている方が 72% と関心の高さがうかがえた。また実習後には実際に AED を使用してみたいと考える方が 91% と高率に見られたのは学習型の公開講座としては成果が得られたものと考えられる。

1. 今回の発表会(講演会)を何で知りましたか？

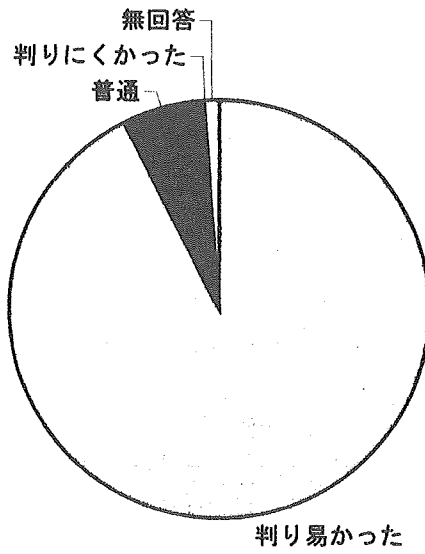


2. 今回の発表会(講演会)はいかがでしたか？

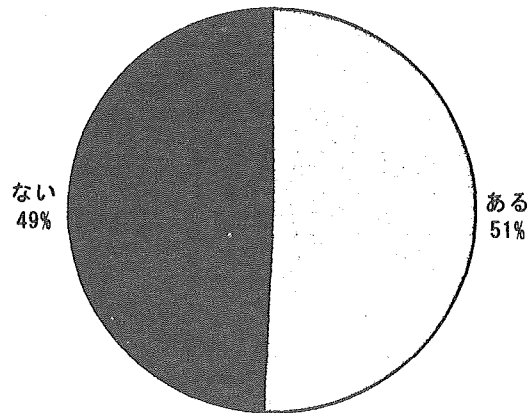


アンケート集計結果

3. 発表内容はいかがでしたか？

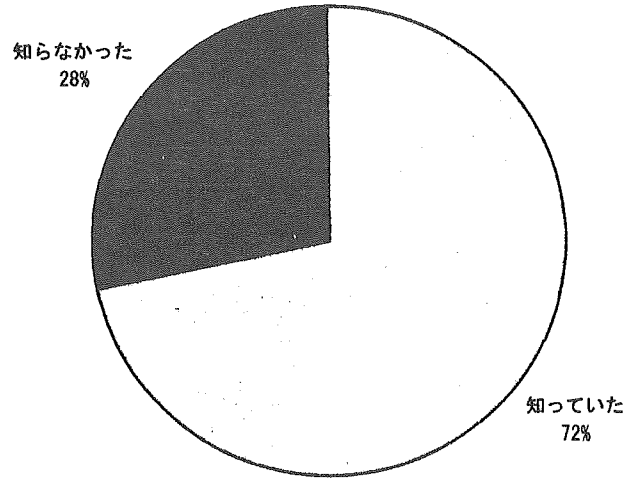


4. 心肺蘇生法を習ったことがありますか？

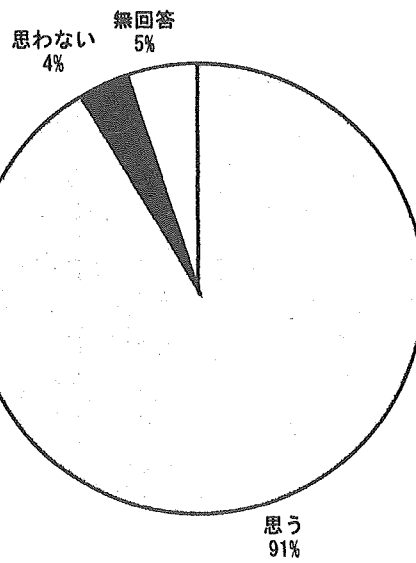


アンケート集計結果

5. AEDをご存知でしたか？

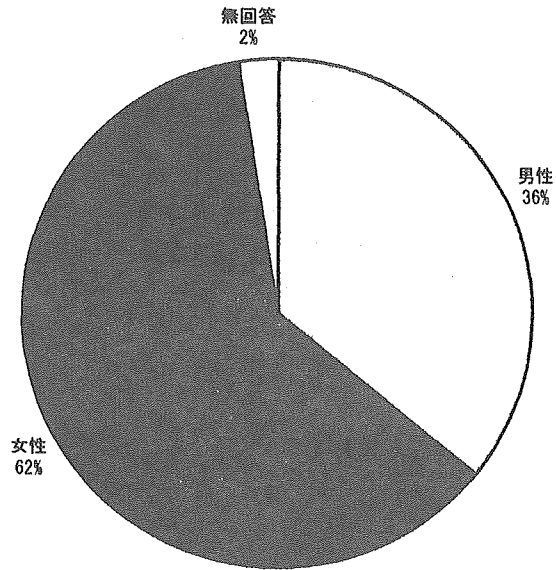


6. 本日の講演を聞いてAEDを使ってみようと思いますか？



アンケート集計結果

7. あなたの性別、年齢をお聞かせください



あなたの年齢は？

